

## 私たちの民主的な社会

監修・講師 杉田 敦

法政大学 法学部 教授

### 学習のねらい

私たちの社会では、社会全体のことについて決めるための政治の仕組みとして「民主主義」が採用されています。民主主義が採用されているのはなぜかを考えてみましょう。民主主義と並んで、政治にとって重要なもう一つの柱である「立憲主義」についても理解を深めます。民主主義的な政治の目的は、何よりも「人権保障」にあり、人権の意義を確認することも今回の大切なテーマです。

### ポイント 1 民主主義とは

私たちの社会全体に関わるルールや方針を決めるのが「政治」であり、政治的な決定を、私たち全員に関わる形で行うのが「民主主義」です。

民主主義には、私たちが直接に決定する「直接民主制」と、私たちが選んだ代表たちが決定を行う「間接民主制」があります。直接民主制は、民意を反映しやすい半面、大きな規模の社会では、実施する上での困難があります。間接民主制では、少数の代表者が話し合って決めるので、実施は容易になる半面、政治が私たちの民意と離れてしまう可能性もあります。

民主主義を実践する上では、一般的には「多数決」による決定が行われています。多数決では、多くの人々にとって納得しやすい結果になることが期待されますが、少数意見が軽視されがちです。また、多数決が必ず正しい結果をもたらすわけではありません。

こうしたことから、人々がよく話し合って決定するという「熟議」もまた、民主主義を実践する上で大切な要素となります。

### 探究活動のヒント

みなさんも「民主主義のよい面・悪い面」をテーマに探究してみましょう。

民主主義は、なぜ多くの国々で採用されているのでしょうか。民主主義では、決定するための時間はかかりますが、みんなで決めたことだから守ろう、という意識が高まるかもしれません。民主主義がしっかりと機能するためにはどのようなことに注意すべきなのかについても、考えを深めてみてください。

## ポイント 2 立憲主義とは

民主主義は、私たちの社会の政治の重要な仕組みですが、民主主義でさえあればいい、というわけではありません。民主主義的な政治が暴走しないためには、政治的な決定に一定の「枠」をはめ、その枠の中で政治が行われるようにしなければなりません。こうした考え方を「立憲主義」と言います。

立憲主義の原型は、「法の支配」です。どんな権力者や支配者も法に従わなければならないという「法の支配」の原理が、ヨーロッパ中世に生まれました。

その後、「法の支配」は、国の仕組みの重要な部分については憲法としてあらかじめ定めておき、憲法に基づいて政治を行うという立憲主義に発展し、フランス革命などの市民革命の中で確立していきました。日本国憲法もこうした立憲主義に基づく憲法です。

立憲主義の重要な要素としては、権力が暴走しないように立法・行政・司法といった権力を分立させる（三権分立）ことがあります。

憲法は国民の総意によるものであり、国民が必要と認めれば改正できますが、立憲主義などの重要な柱をなくすような改正はできません。

### 探究活動のヒント

みなさんも憲法の条文の中から選んで、「憲法と私たちの接点」について探究してみましょう。

憲法は私たちにとってどんな意味を持つのでしょうか。日本国憲法は、「言論の自由」「思想の自由」「経済活動の自由」など、さまざまな人権を保障しています。また、国会のあり方など、代表民主制の仕組みも明記されています。

こうしたことが決められていなかったとしたら、どのような問題が発生するかを考えてみることで、憲法の意義について理解することができると思います。

## ポイント 3 人権保障の意義と展開

民主主義と立憲主義に基づく私たちの政治ですが、そうした政治の目的はどこにあるのでしょうか。私たち一人ひとりが、個人として、自らの望む生活を生き生きと送れるようにすること、すなわち「人権保障」が政治の大きな目的です。

「人権」とは、人が生まれながらにもつものです。かつては一部の人々だけが「特権」を持っていましたが、市民革命などでこうした考え方が覆され、すべての人々が権利を平等にもつとする人権思想が生まれました。

歴史的には、まず「自由権」、すなわち、国家によって不当な束縛や抑圧を受けない権利が求められ、その保障が次第に進みました。

